

79.7.15

22版 金

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二五八〇九(公巻) 三三二七二〇七

議決特別で反対処分統制への労働千葉

105回 臨時委

今こそ 動労大改革を 全国大会へむけ、総決起開始だ。

全国の動労組合員のみなさん。七月九日、動労第一〇五回臨時中央委員会は、中江前中央本部副委員長と西森副委員長以下、動労千葉の本部・役員活動家二六名を「除名」二名を「組合員権の一部停止三ヶ月」を確認、決定しました。すでに決定された四名を含め三〇名にもおよび動労千葉の中心活動家を「除名」にし、一四〇〇名組合員ひとり心の心をもつかむことができないまま、なお「千葉地本再建」を叫ぶ動労「本部」は、この「動労千葉の活動家を大量に除名するため」にのみ開催された一〇五臨時中によって、より鮮明に労働運動内外の物笑いの種となったと言えます。動労千葉一四〇〇名は、さらに一層の団結を固め、このような動労運動の変質を正し、排除の論理に基づく暴力支配、動労のセクト的私物化を粉碎するため、全国の仲間とともにその最先頭で闘い抜く決意をますますうち固めています。

労働者の心を暴力で屈服させることはできない

「本部」革マル反動集団の暴力とデマ宣伝を車の両輪とする動労千葉破壊策動は見事に破産しました。

この当然の結果に追い詰められた彼らは、全国大会での責任追及を逃れるために、さまざまのき弁、まさにき弁としか言えないようなコジツケをもって「千葉地本再建の取り組みは成功した」という「機関決定」を行おうとしています。

心ある全国の多くの組合員の決起が始まっていることを痛いほどに感じている暴力分子中枢は、決起の結集軸となる可能性の最も強い中江前副委員長と「総連合構想」への恐怖をつのらせ、暴力分子下部を督令し、まじめな組合員に圧力をかけながら「中江糾弾」「総連合構想粉碎」の「決議」をかき集めていました。

一〇年来の無暴な千葉地本排除↓動労千葉破壊策動の強行によって生み出された意識分裂、組織的亀裂はいまや暴力分子の孤立を決定的なものとしています。

苦しくなればなるほど暴力分子の本性が赤裸々に現われるということをこの強請された「決議」は示しています。

しかし、一〇五臨時中の経過は、労働者の心を暴力で屈服させることはできないということもまた、はっきりと示しています。

「本部」革マル反動集団の暴力とデマ宣伝を車の両輪とする動労千葉破壊策動は見事に破産しました。この当然の結果に追い詰められた彼らは、全国大会での責任追及を逃れるために、さまざまのき弁、まさにき弁としか言えないようなコジツケをもって「千葉地本再建の取り組みは成功した」という「機関決定」を行おうとしています。

暴力と規約・規則無視

一〇五臨時中の経過はまた暴力分子の体質をより一層鮮明にさせました。

第一に、本部・中執席から発言する中央委員に激しいヤジが発せられるという、津山暴力大会を彷彿させる状況の中で、「本部方針に反する意見」は全て「千葉擁護」と規定づけられ、糾弾、追及されるということ。

第二に、二九地本中の一地本、一四〇〇名の労働者の排除に相当する大量の「除名」処分を決定するという組織にとって最重要な課題を組織決定するとうきとときに、「解釈」でも明確にされている規約・規則の正しい適用、すなわち、「書面投票」という手続きを全く無視したということ。

このような中に、「本部」暴力集団の暴力と規約・規則無視の体質が見事に体现されています。特別決議が公然と提起される中で、書面投票を行えば「満場一致」などになるはずもないことははっきりしているのです。

今こそ動労大改革のとき！

全国の動労組合員のみなさん。いまこそ決起のときです。動労運動の変質を正し、暴力支配を許さない動労大改革とともに闘おうではありませんか。

